

記者各位

2005年2月15日

株式会社トクヤマ

太陽電池用多結晶シリコン新技術実証プラント着工

当社は2月9日、徳山製造所（山口県周南市）において、太陽電池用の多結晶シリコン新製造技術VLD法（溶融析出法）の実証プラントの起工式を行い、建設を開始した。2005年末完成、投資額は約30億円の予定。順調に行けば2006年春にユーザーへのサンプル出荷を開始する。規模は年産で200t。

完成後はサンプル出荷を通じて、品質、製造技術等の確認を行い、世界第2位の多結晶シリコンメーカーとして、太陽電池用多結晶シリコンの安定供給を目指していきたい。

尚、本プラント建設は独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO 技術開発機構）による補助が決定している。

溶融析出法（VLD法：Vapor to Liquid Deposition）とは

原料としてトリクロロシラン（ SiHCl_3 ）を使用し、特殊な反応器でガスから直接シリコン粒の析出を行うもので、現在の製法に比べて格段に速い析出速度で多結晶シリコンを製造することが可能になる。

ただし、この方法で製造された多結晶シリコンは太陽電池用にのみ使用が可能で、半導体用に転用することはできない。

本件に対するお問い合わせ

広報グループ 堀・藤井

TEL 03-3499-8023